週報 W RAPID Weekly Report on Aomori Prefecture Infectious Disease

青森県感染症発生情報　（2008年第32週）

発行　青森県感染症情報センター（2008年8月15日）
（青森県環境保健センター：担当　微生物部）
TEL 017-736-5411、FAX 017-736-5419
青森県環境保健センターホームページ
http://www.pref.aomori.lg.jp/eiken/index.html

Ⅰ　第32週の発生動向（2008/8/4～2008/8/10）

1. **咽頭結膜熱については**、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。（注：警報開始基準は2人/定点、終息基準値は0.1人/定点です）。
2. **ヘルパンギーナについては**、弘前保健所管内においては第31週から、むつ保健所管内では、第30週から**警報**が続いています。

Ⅱ　第32週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)	数	定点	数	定点
(85) インフルエンザ															0				
(74) RSウイルス感染症			1	0.11	2	0.22							3	0.07	1				
(75) 咽頭結膜熱	11	1.22			2	0.22			2	0.33	9	2.25	24	0.57	-1	1	1.00	10	1.25
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.44	4	0.44	4	0.44	1	0.20	2	0.33	2	0.50	17	0.40	-6			4	0.50
(77) 感染性胃腸炎	15	1.67	5	0.56	10	1.11	4	0.80	8	1.33	15	3.75	57	1.36	8	5	5.00	10	1.25
(78) 水痘	10	1.11	1	0.11	9	1.00	4	0.80	4	0.67	2	0.50	30	0.71	-38			10	1.25
(79) 手足口病	11	1.22	42	4.67	19	2.11	2	0.40	1	0.17			75	1.79	31	5	5.00	6	0.75
(80) 伝染性紅斑					5	0.56					1	0.25	6	0.14	5				
(81) 突発性発しん	9	1.00	2	0.22	2	0.22			5	0.83	4	1.00	22	0.52	-8	3	3.00	6	0.75
(82) 百日咳					2	0.22							2	0.05	-1				
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。														0				
(83) ヘルパンギーナ	36	4.00	106	11.78	7	0.78	19	3.80	7	1.17	30	7.50	205	4.88	-21			36	4.50
(73) 麻しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。														0				
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11	1	0.11	2	0.22					1	0.25	5	0.12	-2			1	0.13
(86) 急性出血性結膜炎			1	0.33									1	0.09	1				
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00			2	1.00							4	0.36	-1			2	1.00
(95) マイコプラズマ肺炎					4	4.00					1	1.00	5	0.83	-5				

定点数

保健所名	インフルエンザ（内科+小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報　■は注意報　「空欄」：患者発生数0

Ⅲ　表Ⅱ以外の感染症法対象疾患

（注：届出数は**速報値**です）

（9）結核（二類全数把握疾患）：弘前2人、八戸4人　（20年計：312人）
（14）腸管出血性大腸菌感染症（三類全数把握疾患）：八戸1人　（20年計：　9人）

感染症の窓　手足口病

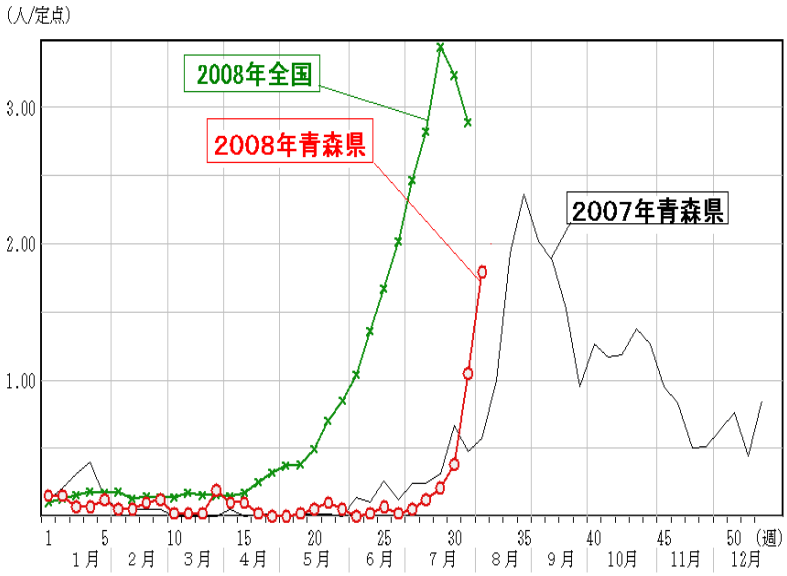

図　全国及び青森県における届出数推移

手足口病は、3～5日の潜伏期間をおいて、口腔、手や足などに現れる水疱性発疹を主症状としたウイルス感染症です。通常、幼児を中心に夏季に見られ、多くは予後良好ですが、まれに、脳炎などを起こすこともあるため注意が必要です。

本県では7月中旬以降、前年値を超えて急増（特に、弘前、八戸保健所管内で増加傾向）しています（左図）。感染は、くしゃみや鼻水などの飛沫のほか、大便や水疱内容物などからも起こることから、**排便後の手洗いの励行、タオルの共有は避ける**ことが大切です。